

私たちは地域・職域・学校など、生活のいろいろな場面で「健康寿命」をのばす運動を実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03(3269)1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

● 今月の主な紙面 ●

- (1面) ● 今年の「世界腎臓デー」スローガン「あなたの腎臓 大丈夫?」
● 平成18年度理事会・評議員会を開く一中全会
- (2~3面(見開き))
● 新連載 子宮がん検診をめぐって 第1回
● 連載 たばこ問題とその規制対策 最終回
● 新刊紹介/「パンデミック・フルー 新型インフルエンザ X デーハンドブック」
● 新連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 続・実践編 第1回
- (4面) ● 学校検診の円滑な実施に向けて
● ドクターズミーティングを開催一中全会
● 人間ドックに新項目「超音波による骨検診」「頸動脈超音波検査」を追加一中全会
● 保健会館クリニックに禁煙外来を開設一中全会
● お知らせ
● 東京都予防医学協会年報2007年版ができました

今年の「世界腎臓デー」スローガン

「あなたの腎臓 大丈夫?」

自覚症状に乏しく、早期発見しにくいことが問題となっている慢性腎臓病(CKD)。近年、CKDは透析予備軍としての問題のみならず、心血管疾患の危険因子ともわかってきた。このため国際腎臓学会と国際腎臓財団連合は、昨年3月2日(木曜日)を「世界腎臓デー」と定め、CKDに対する知識の普及、早期発見、治療の推進をめざした啓発活動を展開している。今年も「あなたの腎臓 大丈夫?」のスローガンのもと世界各地で啓発イベントが行われた。その一つとして3月11日に東京で開催された「ストップ・ザ・腎不全—CKD対策を考える講演会」(主催 日本慢性腎臓病対策協議会)では、第一線の専門医らが講演とシンポジウムを行った。

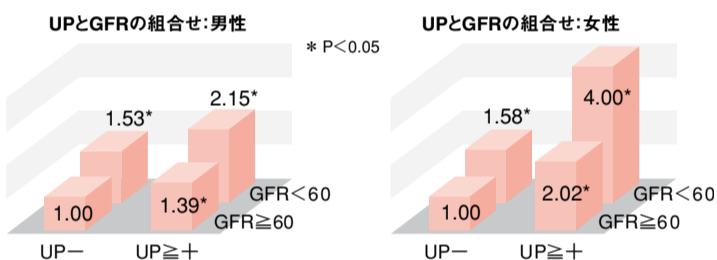
慢性腎臓病(CKD)対策で、腎不全や心血管疾患死の抑制めざす

わが国の透析患者数は年々増加し、2005年末には約25万8000人となった(日本透析医学会調べ)。このままのペースで透析患者数が増加すると、2010年には30万人を突破するとみられ、患者のQOLの改善、医療費の削減といった面から、透析(末期腎不全)予備軍である慢性腎臓病(CKD: Chronic Kidney Disease)対策が急務となっている。

現在国際的に用いられているCKDの定義では、腎障害を示す所見(蛋白尿やそれ以外の異常、または中等度以下の腎機能低下(GFR<60 ml/Min/1.73m²))が3カ月以上続くCKDと診断される。

日本腎臓学会の調査によると、腎機能が中等度以下に低下した推定患者は、わが国の20歳以上の全人口の18%、約1926万人にのぼるといわれる。CKDの原因となる主な疾患は、糖尿病性腎症、尿蛋白性腎症

図1 尿蛋白(UP)陽性は心血管系疾患死の増加要因 茨城県検診結果から全循環器疾患死亡の多変量調整相対危険度

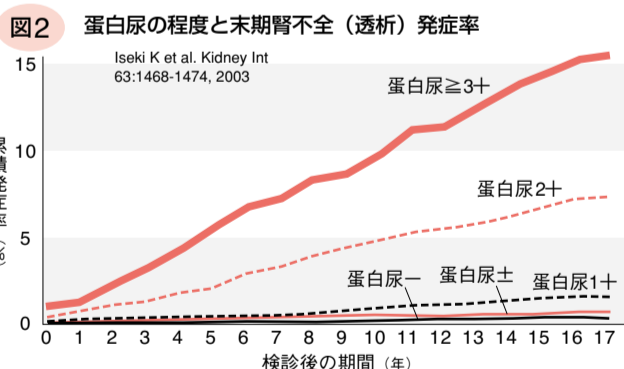


蛋白尿と腎機能低下は、循環器病による死亡の危険を相対的に高める
Irie F, Iso H et al. Kidney Int 69: 1264-1271, 2006

と慢性糸球体腎炎である。これらをいかに早期に発見し、適切な治療につなげるかがCKD対策のカギとなる。

最近の国内外の研究では、蛋白尿や腎機能の低下が心血管疾患死や総死亡の危険因子であることが明らかになってきた。このうち、40歳から79歳の一般住民約9万人を10年にわたって追跡した茨城県のコホート調査では、蛋白尿陰性で腎機能中等度以下

上の群(GFR<60)に比べて蛋白尿陽性群と腎機能低下(GFR<60)群では、心血管疾患による死亡の相対危険が増加すること、蛋白尿陽性と腎機能低下を併せ持つ群では、さらに相対危険が増加することが報告されている(図1)。



が報告された。いっぽうシンポジウム「CKD対策を推進するために」では、日本医師会、日本高血圧学会、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本人間ドック学会、腎と薬剤研究会の代表者らによって、それぞれの組織のCKD対策と活動の展望が報告され、学際的で総合的なCKD対策の重要性が再確認された。

日本慢性腎臓病対策協議会と日本腎臓学会の理事長を兼務する菱田明彦(浜松医科大学教授)は、「CKDは、早期に発見して積極的な治療を行うことで進行抑制や合併症予防が可能となってきた。膨大な数のCKD患者への対策を確実に実行するには、腎臓専門医をはじめ、糖尿病、高血圧、循環器といった各領域の専門医やかかりつけ医などCKDに関わる医療者間の連携が極めて重要となる」と強調した。

平成18年度理事会・評議員会を開く

東京都予防医学協会の平成18年度第2回理事会および第4回評議員会が3月30日、東京・市谷のアルカディア市ヶ谷で開かれた。

理事、評議員会に先立ってあいさつを行った北川照男本会理事長は、18年度の事業をほぼ予定通り遂行できたことを報告し、関係者の理解と協力に謝意を表し、次のように安心して検査・健診を受けていただけたらと思っている。

この後、理事会は北川理事長を議長に、評議員会は國井渉評議員を議長に選出し、19年度の事業計画と収支予算案、次期評議員候補推薦方法の審議を行い、いずれも満場一致で承認された。

プライバシーマークを取得できたので、皆様がいっそう安心して検査・健診を受けていただけたらと思っています。

個人情報の取扱いについて

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)
電話 東京(03)-3269-1141
健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

◆◆ コンサルテーションのごあんない ◆◆

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 5月 2日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長) | 6月 6日 岡 惺治 |
| 9日 岡 惺治(健康管理コンサルタント) | 13日 三輪祐一 |
| 16日 三輪祐一 | 20日 岡 惺治 |
| 23日 岡 惺治 | 27日 三輪祐一 |
| 30日 第213回ヘルスケア研修会につき休み | |

学校検診の円滑な実施に向けて

今、全国の小・中・高等学校では、一斉に児童生徒の健康診断が行われている。本会では、毎年これに先立って検診を担当する小児の心臓、腎臓、糖尿病の専門医に集まってもらい、それぞれの検診の打ち合わせを開いて検診の円滑な実施を図っている。今年も、心臓、腎臓、糖尿病検診の打ち合わせ(写真上)を3月1日に、心臓、糖尿病検診の打ち合わせ(写真下)を3月6日に開催した。打ち合わせには本会の検診を指導し、検診で異常がみつかった子どもたちの診断・治療を担当している専門医や本会の担当スタッフらあわせて約60人が出席し、検診を実施する上でのさまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

打ち合わせでは、心臓検診、腎臓・糖尿病検診それぞれについて、2007年度の実施予定数と地区が報告され、地区別の検診実施日程などの具体的な打ち合わせと確認が行われた。今後の検診のあり方をめぐって、さまざまな意見交換がなされた。このうち、心臓検診の打ち合わせでは、心臓検診の打ち合わせでは、2004年度から2006年度までの心電図の読影結果を、1次検診での抽出内訳や2次検診・精密検査結果についてそれぞれ比較し、例年と同レベルの成績が得られたことが確認された。いっぽう腎臓・糖尿病検診の打ち合わせでは、



2006年6月に血尿診断ガイドライン検討委員会によって示された「血尿診断ガイドライン」を受けて、これまで行ってきた尿沈渣検査法との相違についての対応が討議され、今後の検査法や記載法に関する変更点の確認がなされた。今回打ち合わせに参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

▽心臓検診
原田研介(日本大学教授、鮎澤衛(同大学講師)、金丸浩(同大学、浅井利夫(東京女子医科大学教授)、伊藤けい子(同大学講師)、土井庄三郎(東京医科歯科大学講師)、阿部正徳(日本医科大学)、村上保夫(榊原記念病院院長)、関一郎(都立墨東病院院長)、関一郎(都立墨東病院院長)、石井正浩(北里大学教授)、佐地勉(東邦大学教授)、山岸敬幸(慶應大学講師)、伊東三吾(都立広尾病院副院長)

▽腎臓・糖尿病検診
鈴木淳子(東京通信病院部長、稀代雅彦(順天堂大学)、薬谷理(杏林大学)
村上睦美(日本医科大学名誉教授、土屋正巳(同大学講師)、五十嵐徹(同大学)、関根孝司(東京大学助教授、高橋昌里(日本大学講師)、大友義之(順天堂大学助教授、服部元史(東京女子医科大学教授)、松山健(公立福生病院副院長)、関根裕二(杏林大学、大森多恵(都立墨東病院)、亀井宏一(国立成育医療センター)、横谷進(虎ノ門病院部長)、鶴見晴子(同病院)、玉置尚司(東京慈恵会医科大学講師)、宿谷明紀(同大学、菊池紘子(武蔵野赤十字病院)、北川照男(日本大学名誉教授)

本会の人間ドックでは、先ごろ行った受診者アンケートで要望が多かった「超音波による骨検診」と「頸動脈超音波検査」の2つをオプション項目に追加した。このうち「超音波による骨検診」は、踵骨の骨量を測定して骨粗しょう症のリスクを調べるもの。「頸動脈超音波検査」は、総頸動脈の血管壁の厚さやプラークの状態を確認することで動脈硬化の状態を確認する検査である。本会の人間ドックに関するお問い合わせは、電話03-3269-1141で受け付けている。

さる3月17日、保健会館別館で行われたミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、本会の北川照男理事長、小野良樹医務局長をはじめ、健康教育事業本部、クリニック、検査研究センター、総合健診部、看護部、健康増進部、統計事務部などのスタッフ約50人が出席した。ミーティングでは、平成19年度の事業概要や、健診時の診察で注意すべき点などの解説、ユーザーからの要望への対応やプライバシーに配慮したより良い健診のあり方などが話し合われた。本会の山内邦昭専務理事が「各種制度改革とその対応—これからどうなる健康診断」と題した講演を行った。

山内専務理事は講演で「特定健診・特定保健指導の内容や実施方針に関して、関連する3つの検討会で検討が行われてきたが、いよいよ大詰めを迎えた。今月末の検討会で最終決定されるだろう」と述べて、第5回検討会で示された「標準的な健診・保健指導プログラム(暫定版)」の修正案などについて解説した。また、会場を移して開かれた懇親会では、和気あいあいの交流が行われた。

がんや虚血性心疾患など生活習慣病の危険因子となる喫煙習慣は、治療が必要な「ニコチン依存症」として位置づけられ、わが国でも昨年から禁煙治療が保険適応となつてきている。③プリンクマン指数(1日の喫煙本数×喫煙年数が200以上である)、④禁煙治療を受けることを文書により同意している、の4つの条件すべてを満たす方。予約、お問い合わせは、電話03-3269-1151まで。

第213回ヘルスケア研修会
産業看護の専門性
倫理指針を基に考える
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

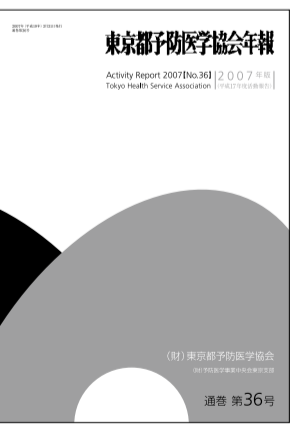
第213回ヘルスケア研修会
5月30日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

東京都予防医学協会年報 2007年版 第36号 (平成17年度活動報告)ができました

●各分野の執筆者とテーマは下記のとおりです(敬称略)●

【Ⅲ 母子保健】
妊婦甲状腺機能検査 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」百瀬尚子(本会内分泌科)
性感染症検査 「東京におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌の実施成績について」性感染症における最近の動向 松田静治(性の健康医学財団理事長)
新生児スクリーニング検査 「先天性代謝異常症の新生児マス・スクリーニング成績」本会検査研究センター「先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の新生児マス・スクリーニング成績—スクリーニングの現状と今後の課題」杉原茂孝(東京女子医科大学教授)「先天性副腎過形成症の新生児マス・スクリーニング成績」大西寿和(東京医科歯科大学医学部講師)
【Ⅳ がん検診】
胃がん検診 「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
肺がん検診 「肺がん検診の実

成績」高梨智子(本会画像診断科)
東京から肺がんをなくす会の検診 「東京から肺がんをなくす会の実施成績」大松広伸(国立がんセンター東病院通院治療センター医長)
大腸がん検診 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績と課題」本会検査研究センター
子宮がん検診 「子宮がん検診(グリーンルーム)の実施成績」伊藤良彌(本会婦人検診部)
東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診 「子宮がん細胞診(頸がん・体がん)の実施成績とその分析」長谷川壽彦(本会検査研究センター)「子宮がん精密検診(2次検診)センターの活動状況」塚崎克己(慶應義塾大学医学部助教授)
乳がん検診 「乳がん検診の実施成績」高梨智子(本会画像診断科)
東京産婦人科医会との協力による乳房検診 「乳房2次検診センターの成績」野木裕子(東京慈恵会医科大学)
【Ⅴ 生活環境検査】
生活環境検査 「生活環境検査の実施状況」本会検査研究センター「食品製造におけるカビ汚染防止対策」諸角 聖(本会学術委員)
【Ⅵ 研究・健康教育活動】
学会、研究会での研究発表/健康教育活動/2005年度の本会の概要



この「年報」をご希望の方は、東京都予防医学協会広報室までお問い合わせください。(電話03-3269-1131)

ドクターズミーティングを 開催 本会

本会では例年、健康診断に従事している医師と本会の関係スタッフが一堂に会するドクターズミーティングを開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めるとともに、健診の効率化や精度の向上を図っている。

さる3月17日、保健会館別館で行われたミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、本会の北川照男理事長、小野良樹医務局長をはじめ、健康教育事業本部、クリニック、検査研究センター、総合健診部、看護部、健康増進部、統計事務部などのスタッフ約50人が出席した。

山内専務理事は講演で「特定健診・特定保健指導の内容や実施方針に関して、関連する3つの検討会で検討が行われてきたが、いよいよ大詰めを迎えた。今月末の検討会で最終決定されるだろう」と述べて、第5回検討会で示された「標準的な健診・保健指導プログラム(暫定版)」の修正案などについて解説した。

また、会場を移して開かれた懇親会では、和気あいあいの交流が行われた。

また、会場を移して開かれた懇親会では、和気あいあいの交流が行われた。

また、会場を移して開かれた懇親会では、和気あいあいの交流が行われた。

【Ⅰ 学校保健】
心臓病検診 「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学教授)
腎臓病検診 「腎臓病検診の実施成績と分析」村上睦美(日本医科大学名誉講師)
糖尿病検診 「小児糖尿病検診の実施成績と管理上の問題点およびその対策について」浦上達彦(日本大学医学部講師)大塚嘉則(国立がん研究センターがん予防・検診部)
脊柱側弯症検診 「脊柱側弯症検診の実施成績」大塚嘉則(国立がん研究センターがん予防・検診部)
小児生活習慣病予防健診 「小児生活習慣病予防健診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
貧血検査 「貧血検査の実施成績と分析」前田美穂(日本医科大学

教授)
寄生虫検査 「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」本会検査研究センター
【Ⅱ 地域・職域保健】
定期健康診断・基本健康診査 「定期健康診断の実施成績」須賀万智(聖マリアンナ医科大学講師)「住民健診の実施成績」本会成人保健部
特殊健康診断 「特殊健康診断の実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
保健指導事業 「保健指導の実施成績」本会健康増進部
人間ドック 「人間ドックの実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
超音波検査 「超音波検査の実施成績」本会検査研究センター
クリニックの外来診療 「クリニックの実施成績」小野良樹(本会保健会館クリニック)